

学力向上推進計画

沖縄市立山内小学校

1 目標

夢や希望の実現に向かって歩み続ける幼児・児童・生徒の育成
～自己肯定感を土台としたキャリア教育の推進を通して～

＜学推基本方針＞沖縄市スタンダード

- ◆各学年・教科において教育課程の完全実施・修得を保証し、確実に基礎学力を定着させ進級させること。
- ◆生徒指導と学習指導（学力向上）の一体化を図り、すべての教育活動で自己肯定感の向上に取り組むこと。
 - 児童生徒を授業の主体とする→自己肯定感を高める
 - ことばの教育技術を磨く →教育技術の基本はことば
 - 指導と評価の一体化を図る →評価にこだわる

2 方針

本県の「学力向上推進プロジェクト」や本市の「学力向上推進施策」に基づき、本校教育目標である『夢を持ち、将来にわたって逞しく生きていく力を総合的に身につけた「人間力」の育成』をめざし、全職員の共通理解のもと推進する。

3 推進上の視点

- (1) 児童の実態を踏まえた目標を設定し、推進計画を立てる。
- (2) 児童の実態を把握することを通して学校・家庭・地域の課題を明らかにし、課題に応じた学力向上に係る取組を推進する。
- (3) 学校・家庭・地域の役割を明確にし、実施時期、実施対象、実施方法等を明らかにした具体的な計画に基づいた学力向上に係る取組を推進する。
- (4) 本校のこれまでの成果と課題を明確にし、継続して取り組むことができる日常的な学力向上に係る取組を推進する。

4 具体的取組

県「学力向上推進プロジェクト」
市「学力向上推進「3本の矢」

具体的取組事項

本校の
学力状
況

平成29年度 全国学力状況調査より				平成30年度 全国学力状況調査より				県到達度調査 無答率			
	全校	市	県		全校	市	県	3年は国算・5年は国算理の平均値			
国語A	68.6	71.7	73.4	国語A	68.0	68.0	70.7		H28	H29	H30
国語B	51.7	56.6	55.5	国語B	52.0	56.0	54.1	3年	5.4	3.4	5.6
算数A	74.3	79.1	80.7	算数A	63.0	66.0	63.5	4年	2.1	4.5	5.5
算数B	38.1	44.0	45.5	算数B	49.0	52.0	51.6	5年	8.1	2.9	10.1
理科				理科	59.0	61.0	60.3	6年	7.9	8.8	10.2

☐ H29 と H30 の全国学力状況調査結果からみると、本校と県との平均値の差は概ね差が縮まり改善傾向が見られる。
算数 A（－6.4→－0.5）算数 B（－7.4→－2.6） 国語 A（－4.8→－2.7）国語 B（－3.8→－2.1）
しかし、市平均との差をみると国語 A においては改善がみられるが、教科によっては県との差よりもが開いている結果が見られた。
算数 A（－4.8→－3.0）算数 B（－5.9→－3.0） 国語 A（－3.1→0）国語 B（－4.9→－4.0）

☐ 県到達度調査結果の無答率の推移を見ると、今年度は無答率がかなり高くなっている。後半の問題につれて無答率が高くなっていることから時間配分にも課題があると考えられる。

☐ 伸び悩みの見られる中間層の引き上げと下位層への学習支援の充実が必要である。

1	沖縄市コミュニティスクールの推進	山内中ブロック小中連携基本計画に基づき推進
2	(1) めざす授業像の共有＜方策1＞ □基本授業スタイルの推進 □諸調査結果分析と重点項目を意識した着実な授業改善 □学習のつまずきに応じた個別支援 □学びに向かう集団づくりと共通実践 (2) 教材研究の充実＜方策2＞ □板書型指導案 □授業プランノート □資料の分析活用 □組織的な取組の充実 学年会・授業研究会・校種間連携 (3) 学力向上マネジメントの推進＜方策3＞ □マネジメントサイクルの円滑な推進 □授業参観とフィードバック □学校 OJT の推進 (4) 学習を支える力の育成＜方策4＞ □学校・家庭・地域が連携して取り組む 共通した学習規律の確立 授業と連動した宿題及び家庭学習の充実 賞賛・激励の場の設定 (5) 集団づくり・自主性を高める取組の充実＜方策5＞ □支持的風土をつくる学級経営 □生徒指導の三機能を活かした授業 □学びに向かう集団づくり（児童会）	【学力が向上する学年・学級づくり】 (1) 山内小スタンダード基本授業スタイル徹底 (2) 諸学力調査を活かした授業改善 学力定着度調査の実施と活用 (3) 相互授業参観の実施 (4) 効果的な補習指導の実施 (5) 授業と宿題・家庭学習の連動 自主学習の定着 キャリアノートの取組（高学年） (6) 読書指導の充実 朝読書 (7) 学習を支える力の育成 「承認」「勇気づけ」「ボイスシャワー」 【規律ある学年・学級づくり】 (1) 山内っ子学習ルール5項目の確実な実施 学習規律の統一と徹底 (2) 言葉づかいに配慮した言語環境をつくる。 (3) 安全・安心な学習環境をつくる。 (4) 学習用具をそろえ、学習に向かう環境をつくる。 【主体的に学ぶ学年・学級づくり】 (1) 話し合いに基づく交流・体験活動を行う。 当番活動や係、委員会活動等を通して自己 肯定感を高める。自治活動の充実 (2) キャリア教育の充実 学年目標。児童の学期ごとの目標の設定と 実践（キャリアノートの取組） 学習内容と実社会のつながりを実感できる 地域人材を活用した授業
3	学びのセーフティネットの構築 □個別学習支援の充実	
到達目標（指標）		
	(1) 基礎学力の定着 (2) 県学力到達度調査の平均正答率 (3) 市標準学力調査 (4) 全国学力・学習状況調査 (5) 読書冊数 (6) 2.5m以上泳げる児童の割合 (7) 持久走	全教科の達成率80％ (低学年90点, 中学年85点, 高学年85点) 漢字力80％, 計算力80％ 県平均に近づける（無解答率を減らす） 全教科 80％ 全国平均に近づける。（無回答率を減らす） 1・2年110冊, 3・4年100冊, 5・6年90冊 3年25％, 4年45％, 5年65％, 6年70％

5 本年度の重点事項

(1) 授業改善 【方策1】

①山内小基本授業スタイルの実施

めあて、まとめ、振り返り、チェックテスト、板書計画、ノート指導等

②授業形態の工夫

ペア学習、グループ学習、学び合い、相互交流

③視聴覚・情報機器の活用

デジタル教科書、電子黒板、書画カメラ、パソコン、デジタルコンテンツ等

(2) 基礎学力の定着 【方策4】

①朝読書（毎週月・木・金）

音読、読み聞かせ

②補習指導

家庭訪問期間、教育相談週間（6月・1月）、夏休み期間

(3) 自主学習の習慣化 【方策4】

①自主学習定着月間（4月）の設定と推進

②授業と連動した宿題

(4) 学習規律の確立 【方策4】

①学習ルール5項目の徹底

黙想（立腰）、チャイムスタート、学習の準備、聞く姿勢、話し方等

6 1日の学びのサイクル流れ

時 程	取 組 内 容
登校～8時15分	・朝の活動 清掃、あいさつ運動等 漢字練習、計算練習等
朝の会・朝読書	・音読、読み聞かせ
授 業	・黙想（立腰）、チャイムスタート ・山内小基本授業スタイルの実施 めあて、まとめ、振り返り、チェックテスト、 板書計画、ノート指導 等 ・学習ルール5項目 ・単元テストの実施 低学年90点以下・中・高学年85点以下テストの学び直し、 再テスト ・授業改善
準備時間	・学習用具の片付け、次の学習の準備
給食準備時間	・すきま読書
清掃時間	・自問清掃
放課後 家 庭	・自主学習（自分で課題を見つける） ・授業と連動した宿題（課題を与える）

7 平成30年度の成果と課題

[成果]

○補習指導年間計画や指導内容の見直しを行い、四則計算のかけ算・わり算で個人差のある児童を対象に学習指導を徹底したことで定着が見られ、日々の授業においても意欲的に取り組む児童が増えた。

○学習の振り返りの視点を示したことで、「わかったこと」だけでなく友達の考えの良さを見つけることや次時のめあて（課題）を意識できるようになってきた。

[課題]

△課題を与えた家庭学習から、自ら課題を見つけて学習する（自主学習）方向へ変えていく取組が必要である。

△45分授業（タイムマネジメント）の見通しをもって授業展開を行うことが必要である。